

<2024年12月7日>

前回の週報でOPEC+の自主減産縮小を延期すれば\$1程度の上昇効果、延期しなければ\$10クラスの下落効果があり延期しかない、会議のポイントはイラクの生産枠順守問題とUAEの生産枠増を予定通り認めるか、と述べました。OPEC+は2026年末までの減産に合意し自主減産緩和の開始を3か月後倒し期間も長くし緩やかな縮小にすることを合意しました。UAEの生産目標の30万BD引き上げは2025年1月から同年9月にかけて実施するとされていたものが、2025年4月から2026年9月にかけて実施されることとなり後倒しかつより緩やかなものとなりました。イラクの超過問題が議論されたかは報道されていません。

上記合意されましたが原油価格は・・・でOPEC+の弱気さがむしろマイナス要因になったようです。本合意は効果ないように見えますが合意しなかったら原油価格は急落しているので下げ止めている効果はあります。何度も述べていますがある策の効果は、実施した前後での変化ではなく実施した場合としない場合の差異で評価しなければなりません。そのためには実施しなかった場合に起きることを推測しなければなりません、そのために統計学や計量分析が発達しました。

イスラエルとレバノンの停戦合意に付きヒズボラは交渉の蚊帳の外でした、と前回述べました。ヒズボラは交渉当事者ではなかったがレバノン政府に説得され後追いで停戦には合意しました。しかし停戦交渉とは停戦条件の交渉でありその当事者は米国とレバノン政府でありイスラエルとヒズボラは当事者に説得されたものです。停戦条件をイスラエルとヒズボラが直接交渉で合意したものではありませんのでお互いに相手側が先に条件を破ったと罵り合っています。前回述べたように戦闘は再開しています。

国際司法に続きアムテスティもイスラエルのジェノサイドを批判しました。同国および米国は事実無根と今回も同じ反応です。

シリアが内戦状態です。アサド政権はかつて仲が悪かった近隣アラブ諸国とは最近関係が良化していたが欧米は独裁政権を批判する立場である。反政府勢力の主力は旧アルカイダー派で欧米は嫌っているが、イスラエルと対立しているイランやヒズボラやウクライナ戦争で対立のロシアが支援するがアサド政権が弱まるのは歓迎という面もある。反政府の別勢力クルドを米国が支援しているが、クルド族を国内に抱えるトルコはシリア内クルド族（およびイラク内クルド自治区も）敵対的である。このように関係は複雑ですが、反政府勢力がレバノン停戦に合わせて蜂起したのはヒズボラおよびロシアの弱体化が原因と思われる。

<2024年12月14日>

シリアのアサド政権があっけなく倒れました。前回述べたようにイランとヒズボラおよびロシアの弱体化が原因ですが、イランもロシアも新政権にアプローチ開始しています。ロシアはアサドを説得して亡命させたとの指摘もあります。両者とも新政権に影響力があると思われるトルコの口利きを期待しているのかもしれませんが。この3ヶ国の外相は7日にドーハでシリア問題を協議しており8日にダマスカスが陥落しました。何らかのかの関連があると思われます。ロシアはシリアの軍事基地を維持したいのは当然で米国やトルコも同様でしょう。この3ヶ国の駆け引きも見ものです。

原油価格は反発しWTIは\$4.09上昇しました。中国の金融政策が緩やかに変更で需要期待、シリア空白化によるリスク高揚、イランとロシアの制裁強化による供給減懸念、米欧利下げによる需要増期待などが上昇要因です。WTIは70を挟んで上下を繰り返しておりこの水準を維持できているのは曲がりなりにもOPEC+が協調姿勢を崩していないことでしょう。ただしオオカミ少年イラクが生産枠を順守していないのでこの水準以上のかさ上げは無理です。

ガザ、レバノンに続きシリアにおけるイスラエルの軍事行動を安全保障上の観点という口実で米国は是認しました。近隣アラブ諸国やフランスは批判しており、米国の孤立感はますます際立っています。国連総会や安保理では日本が珍しく米国と異なる投票行動をとってきましたが、またトラでどうなるのでしょうか。トランプがshow the flagとか言ってイスラエル支持を日本に迫ってきてもちゃんと対応できるのでしょうか。

<2024年12月21日>

水曜日に中東研究センター国際会議（の懇親会）に出席しました。昨年はガザ戦争について名だたる中東アナリストの方々に質問や自分の意見をぶつけ大変勉強になったので、今年もガザやシリアで質問しまくりました。

シリアについては、7日にドーハのイラン・ロシア・トルコの3ヶ国外相会談と8日のアサド政権崩壊の関係を尋ね相当関係があるとの回答を得ました。アサド失脚における勝ち組はトルコとカタールで負け組はロシアとイランに加え

UAE とサウジアラビアとのことでした。UAE はシリアのアラブ連盟復帰を主導しサウジも協力していたので失ったものは多いようです。

ガザの停戦間近という仲介者情報の報道について鈴木は何度もこの手の報道はあったがイスラエルとハマスからの情報がなく今回も同じではないかと尋ねたところ、同意見の方と今回はネタニヤフ自身がエジプトを訪問しているから今までとは違うとの 2 つの回答を得ました。

トランプ復帰による中東への影響変化については、娘婿の父親であるレバノン人を中東担当に起用しており、同氏は教養のある常識人らしくトランプを制御してくれるだろうとのコメントがありました。トランプがハマスに対し自分の就任日までに解放しないと地獄を見るとの発言があることに関し、国際司法がネタニヤフに逮捕状を発している現状より酷いことをトランプが行ったら国際司法は彼にも逮捕状を発する可能性あるかと質問したところ 2 名の方から今以上に酷いことはありえない今が地獄との回答を得ました。一人はこの発言はハマスに対してではなくネタニヤフに対してのものと同仰っていました。就任前に解決せよとネタニヤフに言っているとの意味と思います。

ドル高に戻りました。FRB が利下げしたものの来年の利下げ回数予想を 2 回と半減したためです。日銀総裁の発言も相まって円安が進みました。金曜日の少し戻しましたが、紆余曲折していますがトランプが就任すればドル安に動くと思います。長期的には円安傾向は間違いありませんが一時的には 130 円台まで戻すと思っています。ちなみに今年 130 円台に 1 日だけドル預金しようとしたところ PC 不具合化銀行不具合化ハッカーなのかわかりませんが操作できませんでした。数日後に操作可能になりましたが 140 円台に戻っており見送りました。

<2024 年 12 月 28 日>

イスラエルとハマスの停戦交渉はいつものパターンになりつつあります。相手が新たな主張をしたとお互いに罵り合うパターンに。そうなる理由は仲介国にあるのではないかと考えてきました。交渉席につかせるために仲介国は納得しやすい話からはじめ段々核心部分話すのでイスラエルもハマスも相手が主張を追加したと罵ることになるとの推測です。仲介国担当者は直ぐに決裂しては能力を疑われるから、段々核心部分というステップを取らざるを得ないと思います。

原油価格は今週も wti が 70 をはさんで上下するというパターンでした。イラクが減産遡及順守するか中国の EV 化が減速しないと価格の大幅上昇はあり得ません。ロシアやイランへの制裁強化による価格上昇をトランプは選択しないでしょう。リビアの生産源があれば一時的上昇はありえます。逆に大幅下落するのは OPEC+ が協調止めるかインドなどで EV 化が加速する場合でしょう。